

♪「わかばコンサート」ぶらり訪問記♪

主催:音楽センターアコーディオン土曜教室 後援:JAA(日本アコーディオン協会)

日時 2011年5月15日(日)午後2時～
会場 泉の森会館 3階ホール 入場無料

会場は小田急線狛江駅(東京都狛江市)北口より徒歩1分とつかからない地の利のよい場所にありました。60脚程用意した席が満員状態で、ちょうど良い規模の会場を確保することにどこも苦労されている様子です。

オープニングは「ダニーボーイ」でしっかりと聴かせ、独奏があり、重奏、ゲスト(ギターとヴァイオリン)のアンサンブル、講師演奏と続きエンディングは元気の良い演奏で締めくくるそんなプログラムでした。

共通して感じたことは、皆さん演奏する姿勢がとてもいい。楽器が身体にしっかり抱えられていて安定しています。そのせいか、力みの無いとても自然な柔らかく温かみのある音が出ていました。

「ナイチンゲール」?そんな題名の曲があるんだと思っていたら、聴き覚えのあるフォークダンスのような軽快なフレーズと優雅なメロディーのフレーズが交互に出てくるおもしろい曲でした。

バッハの「イギリス組曲5番プレリュード」は、フリーベースで5分ほどのボリュームを暗譜で弾いていました。演奏者の後ろの大きなガラス窓から外の新緑の若葉をつけた木々が大きく揺れたり、時に小刻みに揺れてみたり、視覚で風を感じながら聴いていて、意外と効果的だったのではないかなと感じま

した。(最初は気になってカーテンを閉めたほうがいいのにと感じて聴いていた)

「遊園地のワルツ」も始めて聴く曲でしたが、優しい風の流れる中で回転木馬のうえではしゃぐこどもたちの声が聞こえてくる素敵な二重奏でした。

小林靖宏作曲の「サラ」を弾かれた方は小柄な年輩の方ですが、歯切れの良い力強いエネルギーがどこから出てくるのかと感心します。

ゲスト<<コート コーシユカ>>(ヴァイオリンとギター二人のアンサンブル)にアコーディオンが1台加わった「二つのギター」は、前奏ではヴァイオリンが弦をはじいて旋律を、ギターの一人がコードを演奏⇒ヴァイ



オリンが休みコードを弾いていたギターがメ

ロディーを、休んでいたもう一人のギターがコードで加わり、アコも重音で入る、⇒ヴァイオリンが弓で加わり次第にテンポを上げ膨らんでいく演奏は、音色の違うアンサンブルの世界を楽しませてください。

エンディングは、アコ12台での「ブラジリア」(スカラムーシュより)「サンバの乗りのよい元気な演奏(写真)でした。(乙津:記)



